

# 実録 焼きヨーグルト事件 外伝

## 海外英文サイト編



conamonn

「最後に」を最初に。

---

この本は

実録 焼きヨーグルト事件 <http://p.booklog.jp/book/99964>

実録 焼きヨーグルト事件 番外編 <http://p.booklog.jp/book/104858>

の続編となります。

。 。

最初に、「最後のページ」を。

レシピ投稿サイトが、こういう風であるという事をよく理解しないまま利用してきましたが想像を超えた出来事が起こり続けました。

何も無い場合は気付かなかったかもしれません。しかし私には色々な事が降りかかり今までの様にこのサイトでやっていく気持ちを持ち続けるのは不可能です。

キッチンを管理する機会も減るでしょう。

。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。

投稿サイトというのは、有事の場合「UPするユーザーとそのレシピ自体」を十分に守ってくれる気や用意があるのだろうか。一連の事で深く感じ入る部分がありました。

素人レシピは運営側にとって莫大な収入の元であるはずで

しかしトラブルがあった時一番助けて欲しい部分に手を差し伸べてくれる部所は無く可怪しい扱いをしたテレビ局等とは自分ひとりでやりとりする羽目に陥りました。大きな相手ですので

最後には無視されて終わり、  
断りや言及無しでレシピアイデアを商用利用し本を出した  
良心や配慮に欠ける出版社数社の反応も大変冷たいもので、  
その名を冠に本を出したはずの著者達は一切表に出て来ませんでした。

コンテンツは投稿サイト外に垂れ流しとなり、  
それはテレビや出版社、料理家や企業から簡単に利用されそして軽くぞんざいに扱われ  
ツイッター等ネット上では悪用される元となりました。

これは流行し過ぎた故悪い事が重なったとも言えますが、  
しかし投稿サイトを利用するどの方にも起こり得る事案と言えます。

投稿サイト運営側は、コンテンツを使用出来る期間を  
「著作権その他一切の権利の存続期間が満了するまでの間」と  
規約に書いています。

それは具体的に言いますと、著作権法第52条に基づき  
「レシピ公表後50年間」という長い期間であると言う事です。

(驚く事に、コンテンツは作者のID無しでも外部サイトに利用されてしまっています。)

全く当然の事ですが、  
私が事後に気付いた諸処の投稿サイト条件をよくご理解なさってから  
それで良いと思える方のみが利用し  
そうして投稿されたものを運営側が使用する、という風になってもらいたいと思います。  
(専門家にしか解らない様な非常に難しい文章の規約ですが。)

物事というのは  
良い事と悪い事を振り子の様に行ったり来たりしながら  
段々落ち着いて行く事しか出来ないものなのかもしれません

up主とレシピが  
私や、他の事件に巻き込まれたメンバーの様でなく  
法的にも、また道義的にももっと大事にされる様になって行く事を願っています。

## 知らぬ間に英文サイトに訳され載っていたレシピ

---

気付いたのは2014年10月頃。

レシピ投稿サイトのグローバル化から  
海外の人に受け入れられそうなレシピが選ばれ  
本人の知らない間に訳されて海外のサイト（以降「英文サイト」と呼ぶ）に載る様になっていた。

人それぞれにキッチンがあり、  
日本語でIDネームが書かれ  
その人のレシピはまとめて見る事が出来る様になっていた。

私の個別キッチンページも出来ており  
こういう事は作者に知らせずにやるのだな、と思った。

一寸驚いたが、  
規約を読むとレシピが外国語に訳される場合があるという事は  
書いてあるのだった。

この時私は、  
自分のレシピがこうして勝手に選ばれ海外のサイトに載ってしまう事に  
あまり良い印象は持っていなかった。  
海外であっても  
自分自身の意志を反映させた状態でやりたい、と思った。

## その後英文サイトに大きな変化

---

その英文サイトを暫くは見ていなかったが  
1年ほど後の2015年の秋頃、  
久しぶりにそのサイトを覗いてみると  
大きく変貌していた。

個人のキッチンは消滅し、  
レシピの説明文にある continue 続く という部分をわざわざクリックしないと  
作者のIDネームは見えない様になっていた。  
そしてそのIDは、日本語ではなくローマ字表記に書き換えられている。

[\(https://jp.pinterest.com/source/cookpad.com/](https://jp.pinterest.com/source/cookpad.com/)

この様なサイトでは  
投稿サイトレシピ写真が作者IDは全く記されず使われており、  
これにも驚いた。)

それぞれの個人キッチンは撤去され  
訳された日本人メンバー達のレシピは 「投稿サイト日本」という名前のもとに  
女性のイラストで一括りにされていたのを見た時  
皆の「個」を無くされたかの様に感じた。

誰のレシピ、というより、「投稿サイト日本部門のレシピ」と  
全員の分がまとめられてしまっている。  
新たに海外で募集されたメンバーには  
それぞれの個人キッチンが設えてあった。

この扱いの悪い方向への変化には相当衝撃を受けたが  
それはその後の、事件の幕開けでしか無かった。

## 驚いた事に、買収先サイトにも掲載されていた

---

運営側は、

アメリカのあるサイト（Aサイトと呼ぶ）を巨額で買収していた。

まさか、と思ったが

しかし「自分が登録している投稿サイト」ではない、買収先であるAサイトへも日本メンバーのレシピは知らぬ間に訳され載っていたのだった。

その時はPCでも見れたのだが、

暫くするとスマホ仕様になってしまっていた。

本人には全く知らされずにこういう扱いを受けるのか。。。と

ここでも仰天した。

こういう風になった事は、メンバーに事後報告された様である。

しかし後述する理由により、「私」にはその知らせは来なかったので

知人から聞かされて知った事となった。

英訳サイトでも、この買収先Aサイトにも

私のレシピ記載には間違いがあったが

この時は自分の手が届かないところにあると思って居り、更新を諦めていた。

## 不可解な、二人分だけの英文全レシピ突然の削除

---

2015年秋、

私は英文サイトにあるレシピに間違いがあり

ずっと気になっていたので思い切って運営側に修正を願い出た。

この時私は英訳サイトのレシピの修正、更新か可能という

他のメンバーには行っていたメールでの知らせが私には来なかったため

それを知らぬままの恐る恐るの願い出であった。

そしてそれは、ほんの数日の内に書き換えられ更新されたので

仕事の速さに驚いた。

しかしその後のある日、

私のレシピ全てが突然削除されていたのに気が付いた。

どういう意図でもって削除されたのか？

事故なのだろうか？

暫くそのまま置いてみた。

願い出た更新は終わっていたのを確認していたし、

何か、向こうの都合の新たな修正、書き換えの為なら

完全に削除しなくても出来そうなものだ。

だがもし事故だった場合騒ぎ立てるのも気の毒、

仮に意図があるものであったとしても

私としてはずっと放置してみようと思っていた。

いつまで削除したままのつもりだろう？

事故なのか、故意なのか？

気付いているのだろうか、気付いていないのだろうか？

すると、想像だにしなかったが

なんと私以外にも同時にレシピ全てを英文サイトから削除されてしまっている人がもう一人だけ居たのである。

それは、

私と同じくAテレビ局から変な扱いを受け  
その酷似レシピで料理家に本を出版されてしまった人であった。

後にこの削除事件について運営側に問うと、  
修正絡みでの  
部署間における伝達ミスが原因、と返事された。  
回答として適切なかどうか私にはわからない。

私はこういうページが、修正の為「削除」が必要なかどうかは  
専門家ではないのではっきりとは言えない。  
故に運営側が言っている事が真実なのかどうかは判断できない為  
あるいはそれは、本当の事なのかもしれない。

私以外にも全レシピを削除されてしまった人が  
すぐ運営側に通報した様だった。

すると、その直後直ぐ様レシピは慌てて再UPされていったのである。  
URLもすっかり変わってしまっていた。

まずその人のレシピからひとつひとつ

最初の幾つかは新しい日付無しに、

しかしハッと気付いたかの様に、数個目のレシピから  
その日の日付が記される様になった。

私はそれをリアルタイムで目撃していた。

その人のレシピが全て再UPされた後、  
続けて通報していない私のレシピも再UPされて行ったので  
英文サイトのトップにズラズラと2人のレシピが連なって載ってしまっていた。



消えたレシピの作者はふたりともAテレビ局から被害を受けた者である為  
運営側に何かあったのかと問うたが  
運営サイドは、そういうことは無い、と回答して来た。

一体何が起こったのか本当のところを知る術は無い。  
事故なのか、故意だったのかもわからない。

削除後、「再UP」でなく  
元あった状態のまま戻す事が出来たのにしなかったのか、

実際にそういう事ができる人がその時居なかったのか、

通報を受け慌てていたのでは余裕が無かったのか、

そのところも全く、わからない。

謎だらけの事件だった。

## 運営側「独自の選定基準」による新サイト用キッチン選別からの除外

---

この頃、投稿サイトでは新たに英訳サイトを立ち上げていた。（Wサイトと呼ぶ。）

最初の英文サイトにあった日本メンバーのレシピは当時約20000件、そこからほぼ平行移動の様な形で新しく作られたWサイトへ移された。

「レシピを移されたメンバー」には、新サイト設立の知らせとそこへレシピを載せる旨メールが届いていた。

しかし、私にはこのメールが来なかった。

20000件の中の、「約700件」が新サイトへ平行移動されなかったのである。1人10レシピ程度と考えると、約70人分である。

そのメールをもらってはいないので、

「新サイトの設立、そこへ英文サイトレシピは移動された」  
（注：「移動された」とは書かれていなかったかもしれないが、事実上そういう状態の様だった。）

「英訳されたレシピは頼めば修正できる」

「嫌ならばレシピを海外サイトから取り下げてもらえる」

「買収先のAサイトにも載せた」

そういう事柄は全く「私」に知らされていなかった。

そのため英訳レシピ更新が可能な事も知らず、私は運営側の顔色を伺いながら修正を頼んでいたという状況だった。

この移行されなかった700件の内には、海外サイトからの取り下げを願い出たメンバーのレシピ数も含まれているかもしれない。20000件という数からすると、移行されなかったのは3.5%という極少ない数のレシピ数であった。

その移行から外されたのは虫食い状態ではなく  
個人のレシピ全ての「キッチン単位」だった為、  
レシピ内容で選別されたのではなく  
そのキッチンまるごと、すなわちその「作者」を選考対象にしたという印象だった。

海外サイトには元々載りたくない気持ちはあったが  
どういう理由でこの移行から除外されたのか、そこをハッキリさせたかった。  
何によりこの様な極僅かなパーセンテージで差別を受けたのか？  
レシピの内容的にはどの人の物も大差無いし  
元々「海外向け」にと選ばれて訳されていたレシピの数々なはずだ。

運営サイトに問い合わせても、「独自の選定基準により選考したので  
詳しい内容はお伝え出来ない」、という返事だった。

新しく公開されたページを見ると、その「Wサイト」にはそれぞれの個人キッチンが設えてあり  
今までの英文サイトには無かったリンクだが  
レシピ作者のIDをクリックすると日本サイトにある当人のキッチンへ  
直接にすぐ飛べる様になっていた。

海外でも、バイリンガルの人なら日本サイトにそのまま行ってみる可能性は高い。

もし私のレシピがここに移行されていたなら、  
IDクリックで私の日本サイトキッチンへ飛ぶ。

そしてそこにあるものは。。。

「焼きヨーグルト事件」についての記載だった。



全く知らないまま終わってしまっていたであろう。

気付かぬ間に英訳され海外サイトに載った挙句

終いにはミスで取り下げたり都合で新サイトに移さない独自の選別をし、

重要な事に関する知らせを配る対象者にもしない。

上記は規約の中と言えはそうなのだろうが

これ等の事は作者を翻弄し、

運営側はメンバーを軽視しているという印象を持たれても仕方が無いのではないだろうか。



そのメンバーへの対応は企業の生き残りをかけての苦渋の選択だったのかもしれない。  
理解出来なくはないし  
中には何が悪いのか、と言う人もいるかもしれない。  
しかし軽い気持ちで登録し利用していた私は  
その暗黒面に戦慄せざるを得なかった。

あれから時間も経ち、  
そこまではやらぬのではないかという期待は持っているが  
中には気分的にその時の拒否反応が残り  
今だにこのサイトに、検索だけでですら  
とても近づく気にはなれないという人も結構居る事は確かだ。

「有事の場合どの部分を庇い守るのか、そして何をどう切り捨てたのか」、  
そういうカラーへの恐怖は  
過去を見知った者には今も不安として付き纏い離れない。

もう一度、最後に。

---

レシピ投稿サイトが、こういう風であるという事を  
無知で、よく理解しないまま利用してきましたが  
想像を超えた出来事が起こり続けました。

何も無い場合は気付かなかったかもしれません。  
しかし私には色々な事が降りかかり  
今までの様にこのサイトでやっていく気持ちを持ち続けるのは不可能です。

キッチンを管理する機会も減るでしょう。

。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。

投稿サイトというのは、有事の場合  
「UPするユーザーとそのレシピ自体」を十分に守ってくれる気や  
用意があるのだろうか  
一連の事で深く感じ入る部分がありました。

素人レシピは  
運営側にとって莫大な収入の元であるはずで

しかしトラブルがあった時  
一番助けて欲しい部分に手を差し伸べてくれる部所は無く  
可怪しい扱いをしたテレビ局等とは自分ひとりでやりとりする羽目に陥りました。

大きな相手ですので  
最後には無視されて終わり、  
断りや言及無しでレシピアイデアを商用利用し本を出した  
良心や配慮に欠ける出版社数社の反応も大変冷たいもので、  
その名を冠に本を出したはずの著者達は一切表に出て来ませんでした。

コンテンツは投稿サイト外に垂れ流しとなり、  
それはテレビや出版社、料理家や企業から簡単に利用されそして軽くぞんざいに扱われ  
ツイッター等ネット上では悪用される元となりました。

これは流行し過ぎた故悪い事が重なったとも言えますが、  
しかし投稿サイトを利用するどの方にも起こり得る事案と言えます。



投稿サイト運営側は、コンテンツを使用出来る期間を  
「著作権その他一切の権利の存続期間が満了するまでの間」と  
規約に書いています。

それは具体的に言いますと、著作権法第52条に基づき  
「レシピ公表後50年間」という長い期間であると言う事です。

(驚く事に、コンテンツは作者のID無しでも外部サイトに利用されてしまっています。)

全く当然の事ですが、  
私が事後に気付いた諸処の投稿サイト条件をよくご理解なさってから  
それで良いと思える方のみが利用し  
そうやって投稿されたものを運営側が使用する、という風になってもらいたいと思います。  
専門家にしか解らない様な非常に難しい文章の規約ですが。)

物事というのは  
良い事と悪い事を振り子の様に行ったり来たりしながら  
段々落ち着いて行く事しか出来ないものなのかもしれませんが

up主とレシピが  
私や、他の事件に巻き込まれたメンバーの様でなく  
法的にも、また道義的にももっと大事にされる様になって行く事を願っています。

実録 焼きヨーグルト事件 <http://p.booklog.jp/book/99964>

実録 焼きヨーグルト事件 番外編 <http://p.booklog.jp/book/104858>

実録焼きヨーグルト事件  
外伝  
海外英文サイト編

<http://p.booklog.jp/book/104958>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/104958>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ